

グループ名 MIZUHO 自主研修会

テーマ 教職員の働き方改革と学校組織の在り方について

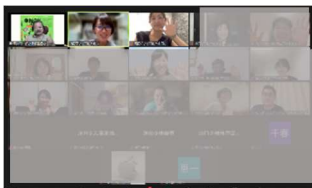
取組のポイント・成果

【①令和4年7月27日（水）】

オンライン講演会「学校DXで働き方改革！」

情報通信総合研究所特別研究員 未来教育デザイン代表社員 平井 聡一郎 氏

産業界が求める人材を知り、社会と学校での学びがリンクしていかなければならないこと、そして新しい学びのイメージを実現していくためには、学校の当たり前をもう一度ゼロから問い直す必要があるとのこと。協働的な学びのためには、机が自由に動くようにしたり、教室の全ての壁をホワイトボードにしたりする等の環境整備の具体的なアイデアも教えていただいた。



【感想】

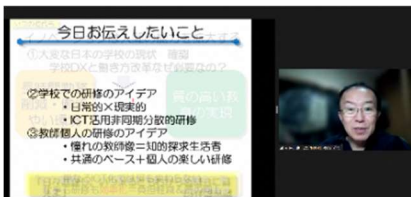
- ・ 職員の働き方が、問題発見的、創造的ではなく、指示をこなすだけになっているのが大問題だと思います。私たちの働き方、ロールモデルとしての意識を変えていかなければと思います。
- ・ これから来る未来を思い浮かべて、自分はどんな未来を創りたいかを考えるきっかけとなりました。先生から刺激を受けたように、自分が周りに広げていきたいです。

【②令和4年8月24日（水）】

オンライン講演会「働き方改革時代の研修を考える～教育DXで研修の日常化を～」

特定非営利活動法人 ほっかいどう学推進フォーラム理事長 新保 元康 氏

学校DXと働き方改革がなぜ必要なのか、「日本の衰退」・「人口減少の加速」・「日本型教育の幅広さ」・「定年延長」の4つの観点からのお話を聞いた。ICTで業務の効率化を行いながら、+αのアイデアが大切であることや、職員同士の対話が生まれるよう、職員室内の環境を整える必要性等を学んだ。



【感想】

- ・ 形式的な研修を撤廃し、より実践的な学びを得るための研修を行うことが、働き方改革と教育の質の向上を同時に実行するために大切なのだと考えさせられました。
- ・ ICT推進や研修充実などいろいろなテーマがありましたが、根っこには助け合いや思いやり、励まし合いといった、人として当たり前のことを当たり前にやるのがチーム学校につながるということを受け止めました。



【③令和4年9月3日（土）】

オンライン講演会「みんなが幸せな学校組織にするには～自律と対話～」

横浜創英中学校・高等学校校長 工藤 勇一 氏

各調査や白書のデータから、日本の若者、子ども達の自己肯定感、幸福度の低さに触れ、与えすぎる教育や手段の目的化が起こりがちな学校教育の課題を示された。また、脳科学に基づいて人間（子ども）の思考や行動を理解すること、当事者意識をもち、対立を対話で解決していくことの大切さを学んだ。



【感想】

- ・ まずは教師自身が学び続ける、自律した存在になること。当事者意識をもって、職員室の雰囲気を変えていく、学校組織を変えていくことも大切だと思いました。
- ・ 時間はかかっても、対話を大切にし、心理的安全性のある職場づくりをしたいと思います。失敗が許され、子どもも大人も安心して過ごせる場所になるよう、一歩ずつ進みたいと思います。

【④令和4年10月28日（金）】参加者交流会～本の紹介～

アンケートで「著名な講師でなくても機会があれば学びたい」「交流会等にも参加したい」との声が思った以上に多く、交流会を企画した。今回は「本」をテーマにし、心に残っている本・学びになった本などを紹介し合った。



<紹介した本>『スタンフォードが中高生に教えていること』『ケーキの切れない非行少年たち』『民主主義を教えよう』『まんがで見るデジタルの学び』『みんなのルールメイキングプロジェクト』『校則をなくした中学校』

【感想】本の紹介を通して、参加されている皆さんの教育哲学の一端が分かり、それぞれの立場から、子どもたちを真ん中に置いた実践を積み重ねていらっしゃる様子に自分自身も元気をいただきました。また、新たに2人の先生と繋がることができ、学びの世界が広がり、ワクワクしている所です。

【⑤令和4年11月20日（日）】『先生を、死なせない』読書交流会

ゲストスピーカー：著者・神奈川過労死等を考える家族の会代表 工藤 祥子 氏

業務量の多さや負担から、勤務時間が増加しており、それと共に教職員の脳心疾患、精神疾患が減らない現状があることをデータと共にお話された。「自分が幸せでなければ他人を幸せにできない。」ご主人の死に向き合い、啓発し続けている工藤さんのお話により、幸せに生きるための働き方を実現していきたいと改めて思った。



【感想】・若い先生たちに、楽しく働くために自分の生き方を考える重要性に気付いてもらえるよう、沢山話したり、働き方のモデルを示したりしていきたいなと思います。
・身近な人に関わりたいと思います。身近な人ほど、なかなか関わることが怖くてお節介ではないかと考えたりもしますが、後悔をしないように取り組んでみようと思います。

【⑥令和4年12月10日（土）】

「働き方改革、始まってますか？—則武小学校の実践から考える—」働き方勉強会

ゲストスピーカー：則武小学校校長 松岡 猛 氏

イェナプランのエッセンスを取り入れ、異年齢集団での遊びや学びを行っている則武小学校。働き方改革をどう行うかではなく、最上位目標である「学校教育目標」への取組が、結果的に働き方改革に繋がっているということが分かった。



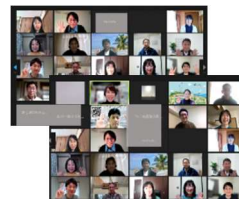
【感想】・「自分たちから変える」「児童が児童の生活を創る」ことを胸に刻み、チャレンジし続けたいです。
・多くの先生方が参加されていて心強かったです。「各々が人のせいにせず、各々の立場にいる私達が当事者として考え、新しい歩みを探っていきましょう」という言葉に勇気をもらいました。

【⑦令和5年1月15日（日）】

「オランダの学校から感じたこと」ゲストスピーカー：ロッテルダム日本人学校 棚橋 弘子 氏

幸福度が高いオランダという国の文化、働き方、教育のシステム、学校の在り方について、幅広く教えて教えていただいた。また、在住しているからこそその視点として話された日本の教育の良さは、参加者の私達にとって新しい気付きとなった。

【感想】・オランダの教育の良さだけでなく、日本の教育の良さに改めて気づかせていただきました。他国の教育を実際に目で見て感じられたことをリアルにお伝えいただき大変刺激を受けました。
・大人が幸福感を持って生活していることが子どもの幸福感につながっているという棚橋先生の言葉に納得。そして、私達も、できないと諦める前にできることがあるのではと勇気をもらいました。



今後の課題

○昨年度の反省から、会の事前事後にアンケートを行った。会の内容に関わる参加者の意向、実態を会の冒頭で伝えたり、事後のアンケート結果を配信したりすることで、実態や学び、思いを共有した。「自主研修としてこうして積極的に行動を起こそうとしている人が身近にいると知り、勇気をもらった。」「前向きに教育の在り方について考え、主体的に学ぶ先生方がいる事がわかり嬉しく思った。」「色々な県色々なお立場の方の思いを聞いて視野が広がった。」等の感想から今後も頑張っていきたいと強く思った。また、取組の⑤⑥⑦は事業外であるが、アンケートでの参加者の意向と講師の方々のご厚意で実現することができた。

●若手を巻き込む自主研修会の在り方

●学んだことを現場で生かす具体的なアクションを考え、その経過、成果・課題を交流するような場作り

●自治体、校種、経験年数、立場を超えて学びや思いを共有できる場の継続

「岐阜県×他都道府県」「教職×行政職（学校×行政）」「公務員×民間」など、様々な枠を超えた学びの追究

gifujishuken2022@gmail.com